

This Page Is Inserted by IFW Operations
and is not a part of the Official Record

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

**As rescanning documents *will not* correct images,
please do not report the images to the
Image Problem Mailbox.**

Japanese Laid-Open Utility Model Publication No. 4-32667

Date of Publication: March 17, 1992

Date of Filing: July 10, 1990

Application No. 2-73591

Applicant and Creator: Ishine Ishida

As shown in Fig. 1, the publication describes a pair of scissors accommodated in a case 3. During usage, blades 5 of the scissors are projected out of the case 3 through an opening 4 formed in the distal portion of the case 3. Handles 6a and 6b, which are urged away from each other, are held in a closed state in the case 3. A guide 15 supports the handles 6a and 6b movably in the longitudinal direction of the case 3. The case 3 has an opening 8 from which the handle 6a is exposed so that the handle 6a may be moved. When the scissors are moved forward and the blades 5 are projected from the case 3, the handle 6b is projected out of another opening 19 formed in the case 3 to open the handles 6a and 6b and enable usage of the scissors. To hold the scissors safely in the case 3 when the scissors are not used, the handle 6b is forced toward the other handle 6a and the scissors is moved rearward to hold the handles 6a and 6b in a closed state in the case 3.

公開実用平成 4-32667

⑨ 日本国特許庁 (JP)

⑩ 実用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報 (U) 平4-32667

⑬ Int. Cl. *

B 26 B 13/00
29/04

識別記号

Z

庁内整理番号

9029-3C
7234-3C

⑭ 公開 平成 4 年 (1992) 3 月 17 日

審査請求 未請求 請求項の数 3 (全 頁)

⑮ 考案の名称 安全はさみ

⑯ 実 願 平2-73591

⑰ 出 願 平 2 (1990) 7 月 10 日

⑱ 考 案 者 石 田 石 根 岐阜県岐阜市細畑 4 丁目 7 番 7 号 302

⑲ 出 願 人 石 田 石 根 岐阜県岐阜市細畑 4 丁目 7 番 7 号 302

⑳ 復 代 理 人 弁 理 士 岡 田 英 彦 外 2 名

明 細 書

1. 考案の名称

安全はさみ

2. 実用新案登録請求の範囲

(1) 収納ケース(3)の先端部に設けた開口部(4)から刃先部(5)のみを突設されて使用されるはさみであって、

開き勝手に弾指的に形成されたはさみのハンドル(6a), (6b)を閉止状態で収納ケース(3)内に設けた案内手段(15)に前後に摺動自在に係止すると共に、ハンドル(6a), (6b)の外側に滑り止め(10)を設け、収納ケース(3)の側方の開口部(8)に沿って露出させたハンドル(6a)を前後に押動可能に形成し、はさみの前進により刃先部(5)を収納ケース(3)より突出させたはさみの使用位置(Ⅱ)において、一側のハンドル(6b)を開角させて収納ケース(3)の側方の開口部(19)から突出させ、はさみを指先の一挙動により使用自在に形成し、一方はさみの後退

による収納位置 (I) において、一側のハンドル (6b) を閉止させて収納ケース (3) の側方の開口部 (19) から内側に係止するよう形成したことを特徴とする安全はさみ。

(2) 収納ケース (3) の偏平な両面 (2) にはさみを前後方向に案内してその使用位置 (II) および収納位置 (I) を限定できる案内長溝 (23) を設け、これに嵌挿される係合軸 (24) をはさみの支点に設けてなる案内手段 (15) を有する請求項 (I) 記載の安全はさみ。

(3) 収納ケース (3) の一側側部にはさみを前後方向に案内する案内溝 (12) を有する案内ブロック (13) を設け、はさみの一側のハンドル (6b) を係止させてなる案内手段 (15) を有する請求項 (I) の安全はさみ。

3. 考案の詳細な説明

(産業上の利用分野)

この考案は、保護ケースに収納された携行用の

はさみを片手操作で刃先部を押し出した上、切断
使用できる構成を有する安全はさみに関するもの
である。

(従来 of 技術)

従来から、はさみは通常保護ケース等に収納し
た上、必要の都度取り出して使用する取扱方法が
携行時においてもとられてきた。

(考案が解決しようとする課題)

この考案は上述の取扱方法によればはさみを携
行した例えば魚釣りにおける釣糸切りについて、
釣竿等で片手が塞がった状態で、かつ水上におけ
る片手操作では使用困難となる問題が残されてい
た。

この考案の目的は上述の事情により、常時安全
に携行可能で、かつ片手操作のみで容易に釣糸切
り等に利用可能のハンディな安全はさみを提供し
ようとするものである。

(課題を解決するための手段)

この考案は上述の目的を達成する安全はさみの基本的な構成として、収納ケースの収納位置にはさみのハンドルを閉止状態で弾力的に蓄勢したまま収納し、案内手段に係合せしめ、収納ケースの側方開口部に沿って露出させたハンドルの滑り止め部位を押動させて刃先部を収納ケースの先端開口部より使用位置に突出させると共に一側ハンドルを開角させケースの側方に開放し切断操作容易に形成した安全はさみを提示する。

(作 用)

この考案は上述の構成により従来の技術のはさみの取扱い方法では保護ケースに入れた状態ではさみを片手操作で使用することが困難であった問題を解決する作用効果を奏するものである。

特に収納ケースに入れて携行し魚釣り時に片手操作で釣糸切りに使用する場合、収納ケースの側方開口部に沿ってハンドルに施した滑り止め部位を押動させて刃先部を使用位置に突出させる一方、

一側のハンドルは収納ケースの開口部から外方へ開放され刃先部を開角させるので、ハンドルを摺む一挙動操作によって容易にはさみの切断作用が可能となる。また、ハンドルを収納位置まで押動させて収納ケース内に係合させれば安全携行することが可能となる。なお、はさみは通常のたちばさみ型のみならず握りばさみでも同様に収納し、使用できる基本的構成を有するのではさみのタイプを選ばず適用できる作用効果も有する。

(実施例)

この考案の実施例を以下、図面に基づいて説明する。

第1図、第2図は、この考案の安全はさみ1の実施例1の釣糸切りはさみである。片手で握持できる薄厚で偏平な両面2を有する収納ケース3は長手方向の先端部に開口部4を設け、ケース3内に収納されたはさみの刃先部5のみを突出できるよう形成され、収納された通常のたちばさみ型の

はさみ S T のハンドルは一侧のハンドル 6 a を他側のハンドル 6 b よりも長く形成し、かつ収納ケース 3 の一侧側面 7 に沿って長手方向に細長い開口部 8 を設け、その間より露出するよう形成したハンドル 6 a の外側面 9 には第 3 図に示すようにはさみのハンドル 6 a の厚さ b より幅の広い表面に波状の凹凸からなる滑り止め 10 を設け、収納ケース 3 を握った片手の親指をもって前後方向に押動することによって、一侧のハンドル 6 a 柄の片面に長手方向の突条 11 を設けて嵌挿された断面 L 字形の案内溝 12 を二分割された案内ブロック 13 に設けその片面を一侧の収納ケース 3 の内側面 14 に螺設してなる案内手段 15 に摺動自在に案内されてはさみ S T を第 1 図に示す収納位置 I より第 2 図に示す刃先部 5 のみが収納ケース 3 から突出した使用位置 II に移動し、同時に、収納ケース 3 の他側の内側面 16 に拘束されていた他側のハンドル 6 b が収納ケース 3 より外方に開放

されて刃先部 5 の動刃 K d を開角 θ だけ一側のハンドルの静刃 K S に対し開角状態になるようにはさみの支点部 1 7 にばね 1 8 を弾装して弾撻的に閉止状態から拘束を解除できる開口部 1 9 を収納ケース 3 の他側側面 2 0 に設ける。また、刃先部 5 の収納位置 I および使用位置 II において静刃側のハンドル 6 a を係脱自在にセット可能の係止用突起による係止手段を収納ケース 3 とハンドル 6 a 側に形成してもよい（図示は省略）。なお、第 3 図に示すように収納ケース 3 の厚さ t はハンドル 6 a, 6 b が収納ケース 3 の内側面に干渉しない程度で薄厚に形成される。また、収納ケース 3 の後端部 2 1 には取付リング 2 2 を突設して安全はさみ 1 を吊下げ紐を通し携行容易に形成できる。

第 4 図～第 6 図は、安全はさみ 1 の実施例 2 を示すもので実施例 1 に示した収納ケース 3 の先端部から刃先部 5 を突出させる構成のはさみの一側のハンドル 6 a を対向する長手方向に刃先部 5 を

設けてなるものを一体化した長い一側ハンドル 6 a ℓ を設け長手方向の両側に設けた開口部 8, 19 から何れかの刃先部 5 を突出させるように一側ハンドル 6 a ℓ に設けた滑り止め 10 ℓ を前後に押動させ前後のそれぞれの使用位置Ⅱにおいて他側のハンドル 6 b を他側の収納ケース 3 の側面に設けた開口部 19 から外方へ開放させ刃先部 5 を開角する構成を有するものである。第 4 図は、この安全はさみ 1 の収納位置Ⅰを示す、要すればストッパーピン等を螺設して一側ハンドル 6 a ℓ をその長手方向の中間部位において係脱自在に係止させてもよい。また、刃先部 5 の収納位置Ⅰおよび使用位置Ⅱにおいて静刃側のハンドル 6 a ℓ を係脱自在にセット可能の係止用突起による係止手段を収納ケース 3 とハンドル側に形成してもよい（図示省略）。なお、実施例 1 の構成と異なる案内手段 15 を収納ケース 3 の長手方向に対し偏平な両面 2 に案内長溝 23 を穿設し、はさみの支点

部 1 7 を延設してその軸頭に設けた係合軸 2 4 を
嵌挿し前後方向に摺動自在に案内し刃先部 5 を前
後何れかに突出させ切断作用を行わせることがで
きる。

なお、この実施例 2 に示す案内長溝 2 3 による
はさみの支点における案内手段 1 5 は実施例 1 に
おいて適用してもよいし、また実施例 1 に示す案
内ブロック 1 3 による案内手段 1 5 を実施例 2 に
おいて適用してもよい。

収納ケース 3 の前後および中央には取付リング
2 2 を設け必要な吊上げ紐を通して携行に便なら
しめている。

第 7 図、第 8 図は安全はさみ 1 の実施例 3 を示
す。小型の収納ケース 3 は一方に刃先部 5 を突出
可能に案内長溝 2 3 にはさみの支点に設けた係合
軸 2 4 を嵌挿した案内手段 1 5 を介して前後に押
動される滑り止め 1 0 を設けた一侧のハンドル 6
b は実施例 1 に示す長手側のハンドル 6 a ではな

く柄の短い方のハンドル 6 b の後端部 2 5 を収納ケース 3 の一侧の内側面 1 6 に拘束させた収納位置 I から押動することによって収納ケース 3 の一侧の側面 7 に設けた開口部 8 により拘束を解放され弾撥的に構成されていた支点ばね 1 8 を介して刃先部の動刃 K d を開角させた使用位置 II において係脱自在の係止手段（図示省略）を介してセットされた上、同ハンドル 6 b を抑えて切断作用を行うことができる。一方、長手のハンドル 6 a 柄ははさみの前後移動に際し、収納ケース 3 の他側の内側部に沿って移動できるよう案内ピン 2 6 をハンドル末端部 3 7 の内側面に当接して案内させると共に、別に設けた係脱自在の係止手段（図示省略）によって収納位置 I において係止できるように収納ケース 3 に設け刃先部 5 の静刃 K s を案内し突出させる。

なお、他の実施例においても適用可能であるが収納ケース 3 の側面に照明用携帯電燈を取付け可

能のアダプターを付設し、夜釣り等においてはさみの使用に便ならしめてもよい。また、収納ケース 3 の後端部の内側空間を利用して釣用の予備器材の収納室を形成してもよい。さらに、収納ケース 3 を透明材より形成し照明用電燈を内装させてもよい。

第 9 図、第 10 図は安全はさみ 1 の実施例 4 を示し、収納ケースに収納される握りばさみ S N の刃先部 5 をその先端部から開角状態で突出させるために先端頭部 28 を後端部 21 より高く形成すると共に、握りばさみ S N の腰 K に近接する一侧の柄部 29 がはさみ S N の閉止状態において、一侧の収納ケース 3 の開口部 8 の後端縁 30 において係止され、開口部 8 の前端縁 31 において開角状態の一侧の柄部 29 の滑り止め 10 の前部を係止し、握りばさみ S N の一侧の柄部 29 に形成した滑り止め 10 を前後に押動して刃先部 5 を収納ケース 3 から出没可能に形成し、刃先部 5 が突出

したとき、滑り止め 10 を押さえつけることにより切断作用を行うことができる。なお、収納ケース 3 の他側の内側面 16 に案内突起 32 を内方に設け、他側の柄部 33 の案内手段 15 を形成し、刃先部 5 の静刃 KS の突出を案内すると共に、対向する動刃 Kd との弾撥性によって開角された使用位置 I に係止される。

第 11 図は安全はさみ 1 の実施例 5 を示すもので上述の実施例 4 の握りばさみ SN を両者の腰部 K を一体化して対向する長手方向に連結してなる両刃のはさみ SN を収納ケース 3 に案内手段 15 となる内側の突出部 34 と一側の開口部 35 の組合せによって左右何れか一方に突出できるよう形成したものである。握りばさみ SN は収納ケース 3 の中央の収納位置 I において、柄部に滑り止め 10 を設けた刃先部 5 を動刃 Kd として左右何れかの方向に押動した上抑え込んで切断作用を行わせる動刃側を左右一体化した動刃部材 36 と、柄

部を収納ケース 3 の内側の案内手段 15 に沿って摺動され刃先部 5 に静刃 K S を左右一体化した静刃部材 37 をその中心部位においてスポット熔接して腰部 K N を形成してなる両刃のはさみ S N を設け矢印 R, B のように左右に収納ケース 3 から出沒させて係脱自在の係止手段を介してセット可能に使用できる。収納ケースには吊紐を取付ける取付リング 22 を適切な位置に突設する。

(考案の効果)

この考案は、上述の構成を有するので下記の利点がある。

(1) この考案は収納ケースに収納されたはさみの刃先部を片手操作で押動し、かつ抑えるだけで切断できるので二段操作を要せず、きわめて容易に片手が塞がった状態ではさみを使用し、かつ安全に収納することもできるので特に釣糸切りはさみとしての作用効果が大きいこと。

(2) 収納ケースに収容するはさみは通常のたちば

さみタイプだけでなく握りばさみでもよく、かつ
長手方向の左右何れかの方向に突出できる対向す
る刃先部を有するはさみも収納できるので利用範
囲が広く、携帯に便利な上安全な作用効果を有す
ること。

4. 図面の簡単な説明

第1図はこの考案の安全はさみの実施例1の収
納位置における全体要部説明部分断面図、第2図
は第1図のはさみの使用位置における全体要部説
明部分断面図、第3図は第2図のAA視部分断面
図、第4図は安全はさみの実施例2の全体外観要
部説明正面図、第5図は第4図の収納位置におけ
るはさみの収納ケース内部説明部分断面図、第6
図は使用位置におけるはさみの収納ケース内部説
明部分断面図、第7図は安全はさみの実施例3の
収納位置における全体外観要部説明正面図、第8
図は第7図の実施例3の使用位置における全体外
観要部説明正面図、第9図は安全はさみの実施例

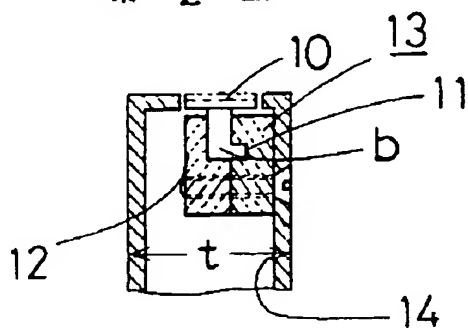
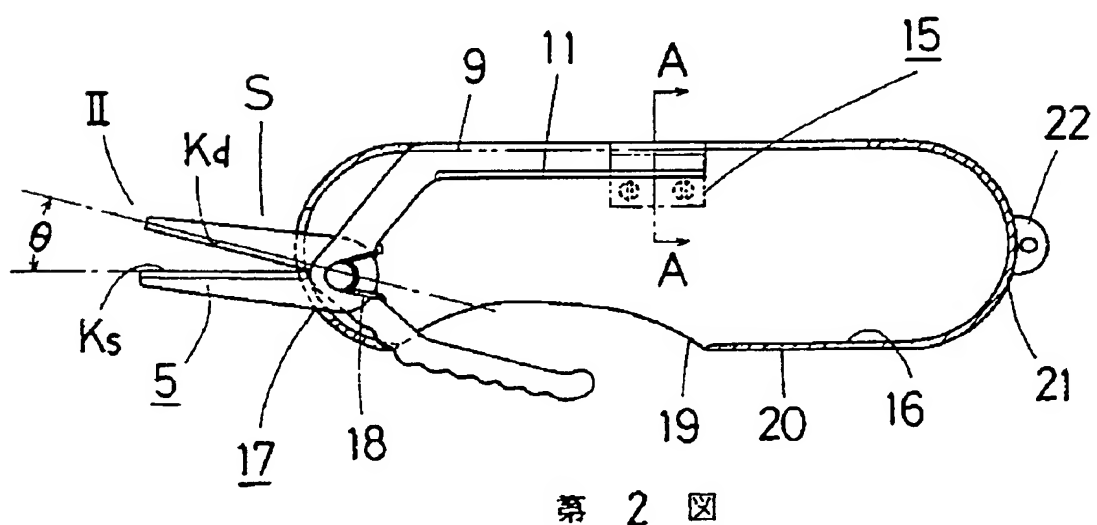
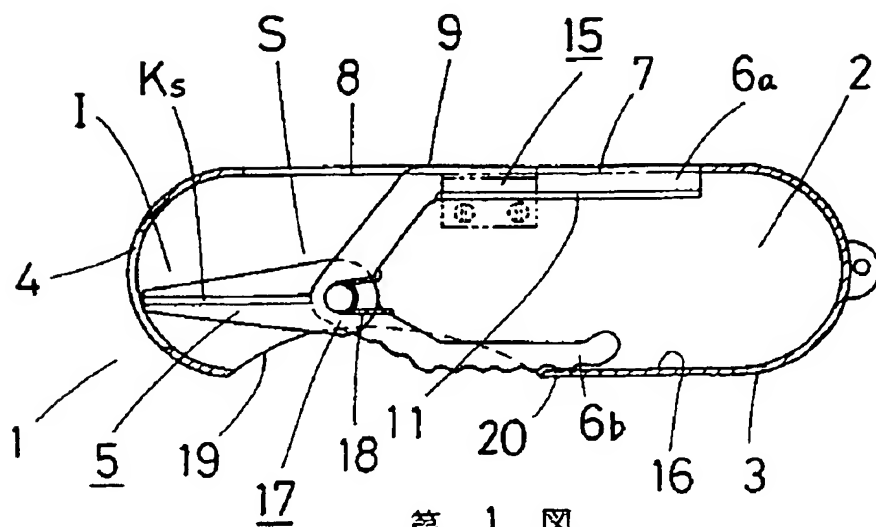
4の収納位置における全体要部説明部分断面図、
第10図は第9図の実施例4の使用位置における
全体要部説明部分断面図、第11図は安全はさみ
の実施例5の収納位置における全体要部説明部分
断面図である。

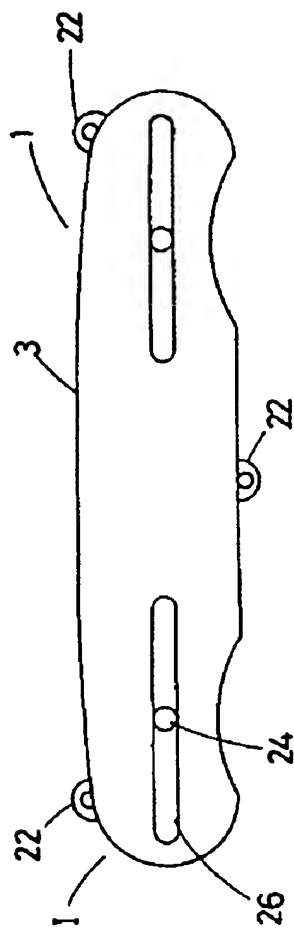
(主要部分の符号の説明)

- 1 . . . 安全はさみ
2 . . . 偏平な両面 3 . . . 収納ケース
4 . . . 開口部 (先端部)
5 . . . 刃 先 部
6 a , 6 b . . . ハンドル
8 . . . 開口部 (一側側面)
10 . . . 滑り止め 12 . . . 案内溝
13 . . . 案内ブロック 15 . . . 案内手段
19 . . . 開口部 (他側側面)
23 . . . 案内長溝 24 . . . 係合軸
I . . . 収納位置 II . . . 使用位置

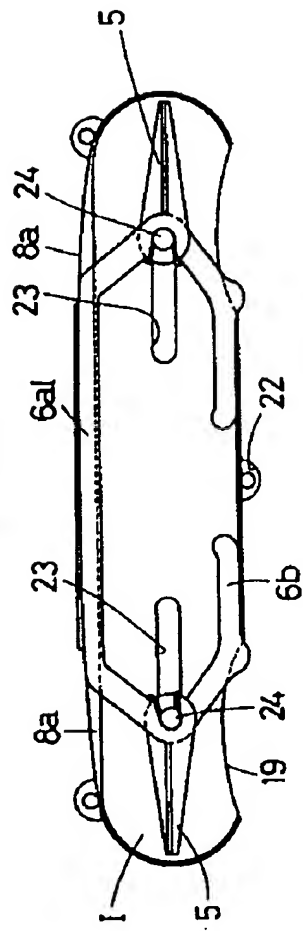
代理人 弁理士 仙 波 正



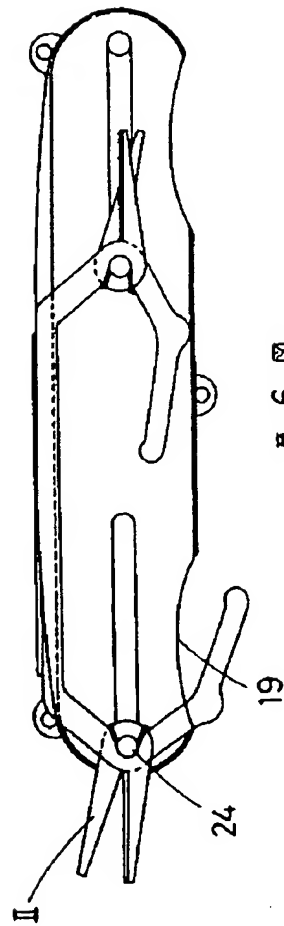




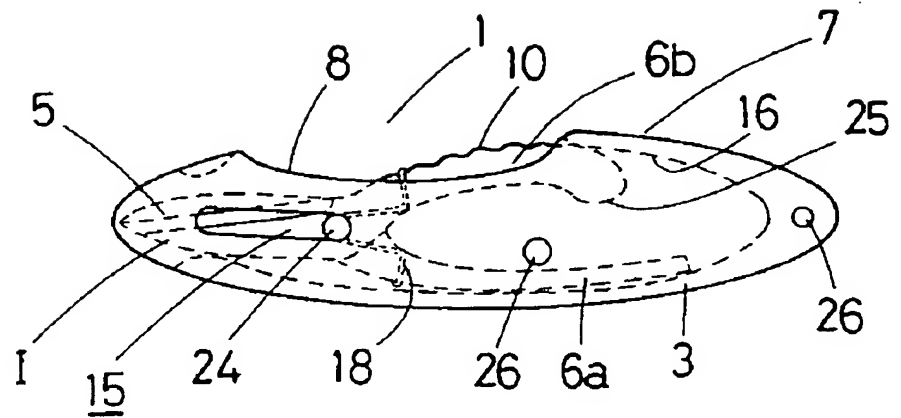
第 4 図



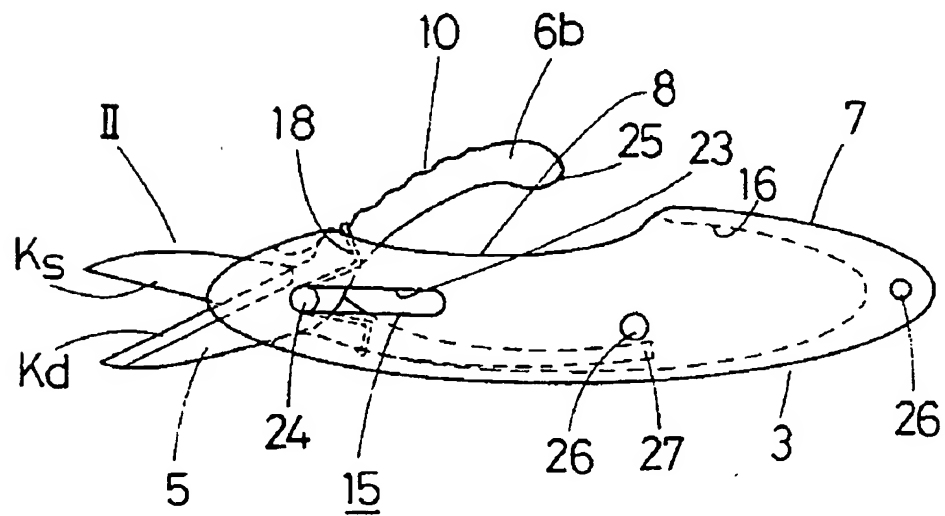
第 5 図



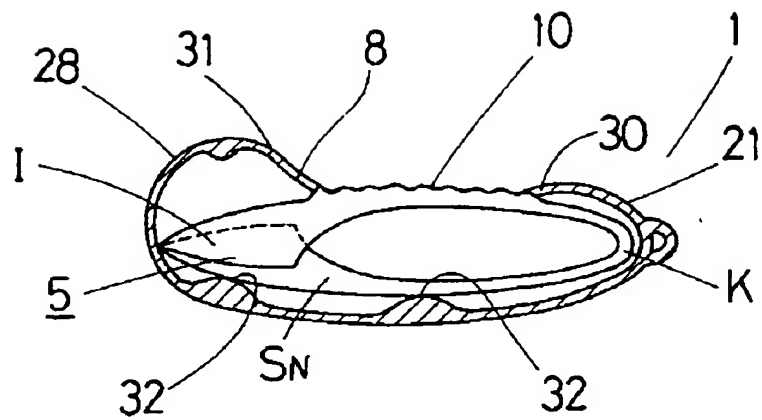
第 6 図



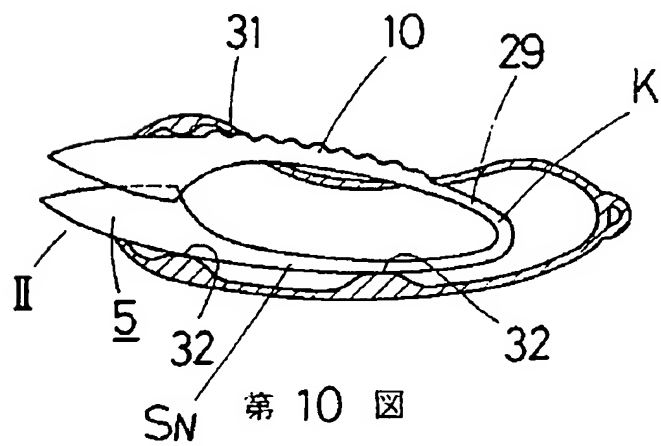
第 7 図



第 8 図

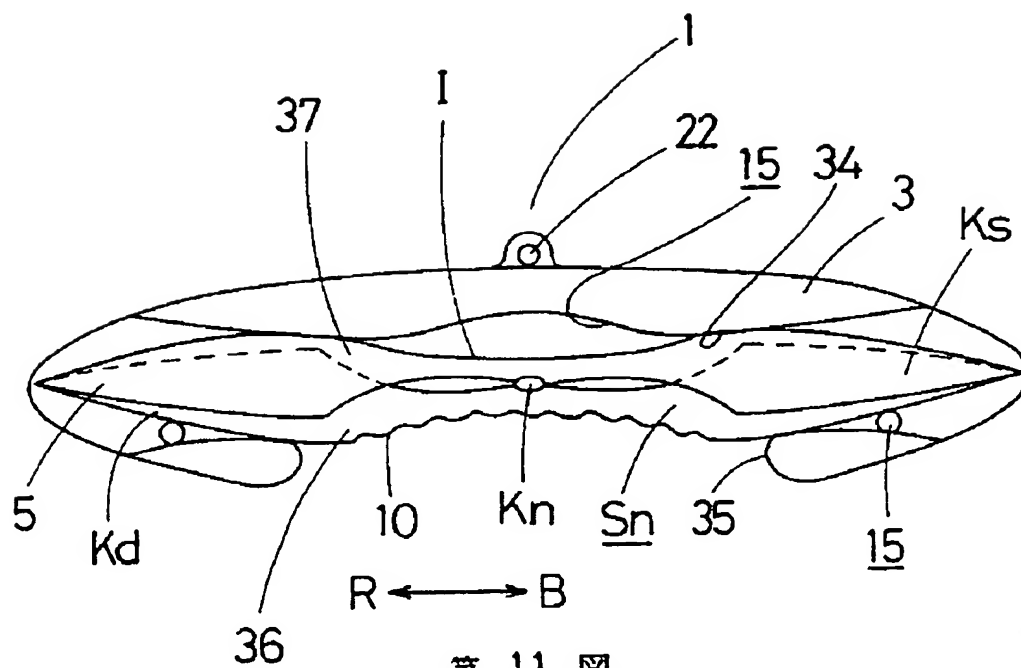


第 9 図



第 10 図

後図面なし



855

代理人 弁理士 仙波 正

実開 4 - 32667

公開実用平成 4-32667

手続補正書

平成2年10月31日

特許庁長官 植松敏殿



1. 事件の表示

平成2年実用新案登録願第73591号

2. 考案の名称 安全はさみ

3. 補正する者

事件との関係 実用新案登録出願人

住所 岐阜市細畑4丁目7番7号302

氏名 石田石根

4. 代理人

住所 〒500 岐阜市加納朝日町3丁目5番地

氏名 弁理士(5904)仙波 正



5. 補正命令の日付(任意)

6. 補正の対象

明細書の考案の詳細な説明の欄、図面の簡単な説明の欄及び図面

7. 補正の内容 別紙の通り

8. 添付書類の目録

(1) 図面(第12図及び第13図)

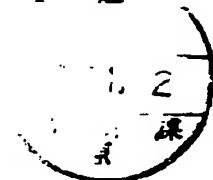
1 通

- 1 -

856

実開4-32667

方式
審査



本願明細書を次の通り補正致します。

1. 明細書の第13頁第8行目「…に突設する。」の

あと第9行目との間に次の補足文を加入する。

「第12図、第13図は安全はさみ1の実施例6を示すもので、上述の実施例3の小型の収納ケース3の一方に刃先部5を突出可能に設けた案内長溝23にはさみの支点に設けた係合軸24を嵌挿した案内手段15を介して前後に押動される一側のハンドル6bに親指を挿入できる環指孔38を設ける一方、第13図に示すように収納ケース3の収納位置Ⅰに収納したはさみの刃体の収納部位の下側に他側のハンドル6aに親指以外の指を挿入して片手で把持可能な長孔を有する環指孔39を透設したラシャ切りはさみのような形状の安全はさみである。はさみの刃先部5は一側のハンドル6bの環指孔38に入れた親指で押動して、使用位置Ⅱに突出され

るまで案内長溝23内を係合軸24を摺動させ一側の
ハンドル 6b は第12図に想像線で示す開角位置ま
で開角可能の動刃 Kd となる刃先部 5 を構成させ、
一方、係合軸24を介して収納ケース内を摺動され
案内長溝23も延長方向に突設できる静刃 Ks とな
り他側のハンドル 6a と一体化し、かつ、使用位
置に係止可能の適切な係合手段を設ける。(図示
省略)」

2. 明細書の第15頁第5行目「断面図」と「である。」

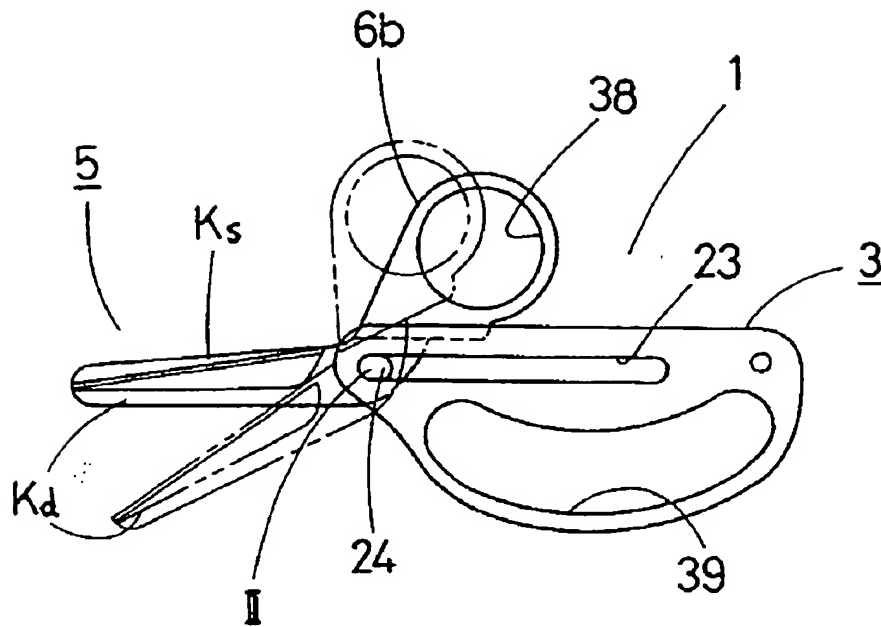
の間に次の補足文を加入する。

「、第12図は安全はさみの実施例6の使用位置に
おける全体要部説明正面図、第13図は第12図の安
全はさみの収納位置における全体要部説明正面図」

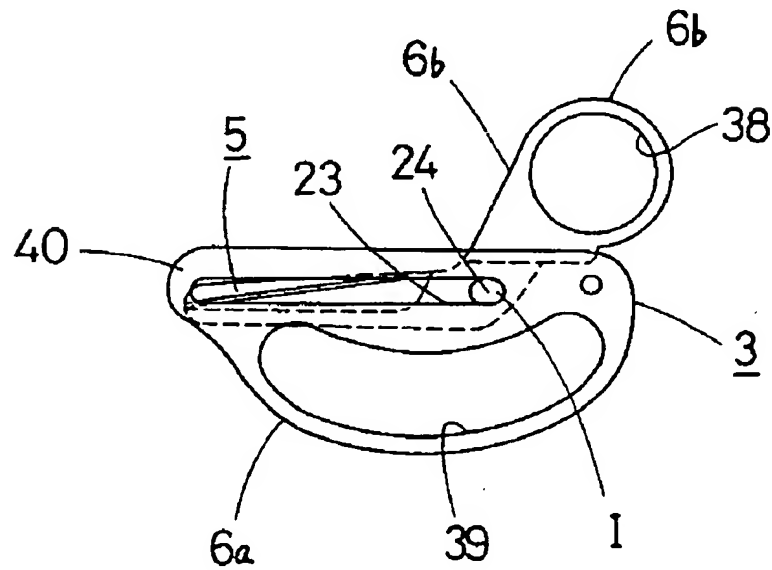
3. 願書に添付した図面に本書に添付した図面第12

図及び第13図を追加する。

後図面なし



第 12 図



第 13 図

④ 2. 10. 31

859 実開 4 - 32667
代理人 弁理士 仙波 正